

# 春林軒「門人録」について

高橋克伸

On the "Monjin-roku (Student Records)" of Shunrinnen

はじめに

- ① 華岡青洲と医塾春林軒
- ② 華岡家に伝わる「門人録」について
- ③ 春林軒「門人録」の検討  
おわりに

## 【語文解説】

本稿は、春林軒で華岡流外科を学んだ人々の入門年や出身地などを記載した「門人録」について紹介及び検討を行った。春林軒は、華岡青洲が創設した医学校兼診療所の名称である。華岡青洲は文化元年（一八〇四）、彼が開発した全身麻酔薬「通仙散」を使って乳癌手術に成功し、乳癌手術を中心とした華岡流外科を生み出した。華岡流外科は当時の医療技術をはるかに凌ぐものであったため、諸国から医学を学ぶ人々が集まり天明八年（一七八八）から万延元年（一八六〇）まで一八八七人を数えた。この時、入門にあたって記録されたのが「門人録」である。「門人録」については、すでに吳秀三が「華岡青洲先生及其外科」で紹介しているが、これは国別に分けられた「門人録」である。本稿では華岡青洲の末裔にあたる華岡家に所蔵されていた年次順の「門人録」を紹介、検討した。まずこの「門人録」が春林軒の元帳にあたる可能性を指摘、文化三、四年頃から書き始められたことを述べてみた。そして内容か

ら門人たちの請人（保証人）に注目し、初期華岡流外科の伝播が青洲の弟治兵衛を介して、そこから商人層を通じて行われたこと、また春林軒の組織化、及び入門ルートも商人層が介在していたことを指摘した。とくに現在確認できる請人をみると飛脚、定宿、薬種商などがあり、なかには彼らの商業活動とかかわって請負う門人たちの地域があつたことを指摘してみた。また、「門人録」より春林軒の分塾である合水堂の前身にあたる堺の診療所の設立時期を述べた。設立は文化八年（一八一二）と考えられ、その目的は入門者を安定的に増やすためで、そこには華岡流外科を広め同門協力体制の基盤作りがあった。

以上、華岡家所蔵の「門人録」を紹介、検討することにより、初期の華岡流外科の伝播には商人が深く関わっていたことを展開したが、今後これら商人層の史料を発掘することにより春林軒と商人、門人と商人の関わりがあきらかになると思われる。